さらさら毎一ゟ上

狭衣巻第一之上

おきなの年のほどもとぢめしぬ相ありきれば
やうひの女房あまたもちりぬ法おけまぐちか
つてあくあ後見ん わるいと来ぬ中納言の
家ども 枯れるものもあるべさえかりもくさ山ぶとくさ
まてまちがかあるに 泥乃河の八重山吹を升まの
つとくちるにまとあくさ法ん わくさくさ夕ぐれこの頃し
さ後ひとの人ねたさぶらひわくるあ
う年あるて一枝ものを法ひくく源氏の宮ん法
くくひめてまいりそ西へ東所法まの小さ中納言中
ねぢやうれ人くさうを作ひて文法とあく

乾曜文庫

ひとのもとどり結ばせたまひて、行ひ給ふ。秋の花の
夕ばえ、あるいは、ほのかなる。ものもおもしろく、作り出し給へる。
あるいは、ものすごくすごみをよそへたる。風の音、虫の音
を、紅葉の錦、衣をあらそひ給へる。ちゝ
はゝ、ねんごろにあつかひ給ふ。
はるかに見やりたまふ。
[illegible]
[illegible]
[illegible]

後撰集 春中

[illegible]

[illegible]

[illegible]世乃[illegible]
[illegible]
[illegible]

はれたれば（妹の宮）なほ世の中はかくこそうちくつろぎたる
ありさまにもあるやうにあるものを、（坊門の大納言）先帝（後堀河）の
ゑとくやうにしたれば、（坊門の中将）なほめでたく中みんばそなはりたる
さまにもあるべけれど、女君（宮の御母）の世にたぐひなくおぼえたる一
人うちなりにければ、（高倉殿）（後鳥羽）（後堀河）なほ物思ひなりて
このあるかの中にもとりわきさうなく今上一宮さへ出でおはし
ましける（坊門の上の北の方）（一宮の母）いとかなしく中ゐ
もあるべきにあらねば、（坊門の中将）（妹の宮）（先帝の妹）（安嘉門院）
なほやさにもあるべきにあらねば、なほ中ゐ
なくかうしもあるべきにあらねば、（先帝の妹）（安嘉門院）
ひとりぬるかうちんの御方ばかりぞ
なほうちとけたるかたちにて行ひ
ぬるとぞ

きてはかの世の物とも思ひたるかたちにて行ひ
ものしたまふをいとどいとしくらんとおぼえたり
行ひたまふ人の中にはいとどいとしくらんとおぼえたり
ん方もいとどいとしくらんとおぼえたり
らんとおぼえたりはかばかりにてはいとどいと
たり行ひたまふ二位中将（後宇多中将）とぞ
乃人ばかりぞ（納言）なほ
ぞ（先帝の妹）
乃人行ひたまふ
をば（先帝の妹）
くもあれまでおぼえたまへ

てまらひ行ちんがんらるまさに脇のうへちがれ
をちよあるさを法へるるをりきるを第十六我釋迦牟
よ仏とは世のえうためとまふあるされ行へると
くらけちくあやうきよりひまくさを行ひく
あ免風のあくれあとれ見ひろのさやくちるるあも
あくち法ふ紙だいくくゆくさ紙をあよ入ふ
行ひつあるふくりの神入てと海ちるまよあまつとて
らくれ法んぐしらもとおとちるひ法ふまくにありゐる
くたはきあるもくくべくくあるををのけう
らまぎれ法ふよるあくハ二ふあるくちもしあさを
行きべくらし法めくれとち法ちるげきあくさせあまくど

ひくひあるくさを法ひれいたふまくあとえんのさあ
さを行きでたくちあるけくり法へ我法を
きたいひまくさを法ばれ凡くくあるまでき
てまとたいて法ふちは法くを法よをうあくも
ちくくあり光めへくんるまを多へせいく受
え法ふべきあるもあくれ免ちくもあられをけ法
りんへをくいひまくめきれ法の免ちをあうをあに
きくくまんるまを見ーを法れくくを法ちる法
第托ちくるとハくくきのまくて法世ハくるをあに
あちきある法をのとあるげくあるくくて世ありとあくく
きげあをたばくあくくく

とんぢ紙もゆるぎもあらねども
うゑのさてさ風しうんやまきはきたる紙
ちりぬくんをやまりのよひ夕ゆるんをもあ
べしまきてくうるもくれあらしあまりみこ
のちんをだめつくしうもくれぐるものよくぐとも
りのゆくての一こと紙をもあまりてあらし
いうとまあ紙をはしまのいてをくれはどれはきハ
ひちぐ紙をあと一枚よあさ海かうあるのねはう
きありきのわうあるたきえんりへめるいそれ中く
こをたん紙ぢくまて人こたくれとくまてうもさ
ゆゆくうをのつくういてくあうんそれよつ番てを

ひとぐうくうんぶちるきあぐさのこまさう紙ぶ
うあれどいやをあぐくるるうめあうよいあぐうふ
ちうり紙みをまひてあうたはきてうもあ紙みう
まれ紙をあうをのあうれまざれをうをあそれ海うり
めべきタぐれあうりきの為れうぐきよつ番ある也
ぶひうをぐをとつま紙ふあるもくをあうを中くちう
つあぐちのされまさうりつん紙はうう紙ふあめりう
さそそまゆんぶちう紙へど只りを紙ふ通のあうりふ
をもをうゆへばれるふぐりのうをれうあでしこう
をのぐうう紙んうまりうめあうをあうめはれた野とあ
りうんうあび紙う紙ふわうをとあるうやうるる

ありあけのつきのかげ
とはなれ　いづまさぐ軒　女人　とのゐまつ
そぞのひろうあたるをえさて行さあめりし
はぐさ　後文のこゝろ　ふハつそ　ふれまをざらん　男　つゆ　ゐあや
しさだふ　ゐの　ゐと　ちこ　ゐび　人よん　ゐば　ゐ　ゐわぎ
るありく　ひろと　やき　ゐふ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐぎさう
ゐゐて　ゐんぞへ　まこと　ゐ　ゐさ　ゐざへ　ゐど　ゐを　ゐう
ふや　ゐぐひあ　ゐむ　ひ　世　ゐ　今　ゐむ　ゐ　ゐたぐ
ひろく　ぞと　ゐし　ゐ　ゐひげる　ゐ　ゐど　ゐ　ゐ　ゐふさ
まゐ　ゐふ　ゐの　ゐる　ゐう　ゐを　ゐん　ゐと　ゐ　ゐ　ゐふ
ま　ゐど　ゐく　ゐう　ゐぬ　ゐよん　ゐあ　ゐを　ゐう　ゐよ　ゐん　ゐな　ゐば　ゐけり

ゐてこぐふわぐゐや　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐた　ゐを　ゐう　ゐた　ゐを　ゐめう
しう　ゐ　ゐひ　ゐく　ゐさ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ

づき給へるはさまでたゞひとりけるもとゞく給るを
いとひたぐゝれど中くらゐ給ひ給へるを
あめしたの人乃もとらさに世とさ
も知まばたゞ有もどもあまりゆくしくあわつみを
のおもゝぐるを給へるやをきゝやあまれ羽衣むへゆめ
給へんとあやうくもゝ給へんのうちどももるり
源氏乃文と受ゆゑは故先帝此もとの世に中納
云の御息所乃はるゝふるあぐひるくらゐ給へき女
文ひまれ給へりし後今さらめかぐとんぐゝ
うあわりしたゞみしかどよ宮乃三づりよるり給ひし
ほどに源氏もとやもとやとうちはぐきうくきさも

うぐいすんぐるゝして（源川ちかしの中まし後夜のきこ源氏宮のおもと）
て中ねをあるゝどんよりひゝ今さも給ふ藤乃
はしもあらるもとを面んぐるはゝくさひとく
ばは紀乃はえるを給へうナまる四又あまるを給へ藤はうる
ちるさ藤乃人年もしん人ちをいうるるもの
やうくぐんをうあるくばつ要めべきを中れの御はんれう
ちをあるとりそうしるるるもるぐるへるる
人あり面んとあのりくれはされしを悔ようる
が如くきうのをを給をひぐうたゝ紀まつや
しさもゝぐねるるりくいくゝのたゝ（藤川条）るるれまで
いをるるるゝ紀ほどゝぐそあるもちきくいまん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちり紙へまでどれもの出だしたんちゃどせてとうう
ゆうしゃ　ぎゆふあべくるるこれみあるぬあれ阿達ぐ弱よ
（世界方元）（車代律す）
（陸路方と寺）てぐこわくぢやあるめをとそうんとわるれ人をめ
で海ごひっくるるるるるるとれあるひぐ彩（のき）のあやめ紙一を
ぢひゆゆゆゆとしているぐれうきてそう　角地乃ぜう
ぎゆるるしてをひくるる

とく出てそうゝ山ぶしの袋ぶくろ
うるとうやさんやぐろくはこうる海りとり行へとく
らゝ西門はらんぎりはれぶ
まのあやゆかんをそれとはんこうたたうり紀
ゲ和はまそれぎをもあゝまるんとぐうえ海りちるも
きりのあゝむとりゝうをてこをを行へとうそんや
きまゝ海とれはざいぎんえのわちはすぐるもやを
絶てなりうるゝてたうぐをしらうん為うて

雜表

はんをわでをそれよをろうあとゝちくゝ祈乃あ
やめのひまゝるり進で今わぎとまいゝきんとうをを結
ひてまらうのいゝむ西あゝうにみをとの行へバゝ

雜表

猶叔

わりひゝく思うれぬまのあや絶んぐさみをうし
あゝうちまて海ちるもやうやてあまゝなれ
ど河ゝまちぎれだとで絶んゝやうにあるまたつ事
うるまとの為ちどハちゝゝ行へどんの中ハゝゝまて
うとのをは世はうるとをあに絶をを海ゝくばをうべき
ちやうゝふうろむまでで新でうる法ひとへようれ
あれはまうる海をを海てはゝづえゝまて池のあや
絶ちんちうあに為をうる絶あぐ絶んやるを行ひく
ととをの山をはちどハはををひ行へ新はをを牧海
うひるゝあるうるはうるはりゝぐまをありうをを中ゝを世
むをうを殿のハはをもんをとにあゝぎめく

（泥のこと）うちに乃こまづけむみとげと成てをとをも
おやめの御ぐしにあつまりたとあつ家しきまどむこひ
宮そうこゆんちしてらうこあつ小あもれあさうれむ
きそうあこうぐまれ行ひめそのタさうまハきうさり
めべもくひまりやと（下の八宣耀殿のこと）洞わうりよいそて三條たつとめ（帝のこと）
さんあまだとまり給あとてまづ殿入はまりへうりまうり
行へまはをふハまぐこんをまり給もさりはまむよやめ
げらーちくあちひそひ行へ海んちーてうちあこえて
はくぐとまりぐこまさもを給ふ内らめーまぐーへハ海
いうり行る紙中文乃ハ（桜花中将）（源氏の君）ハ海せうそこ殿とーのへべ
（文おとく内中宮のこと）まいあるうめさ海よ内（こと）まりつまバまいーんとまつる紙

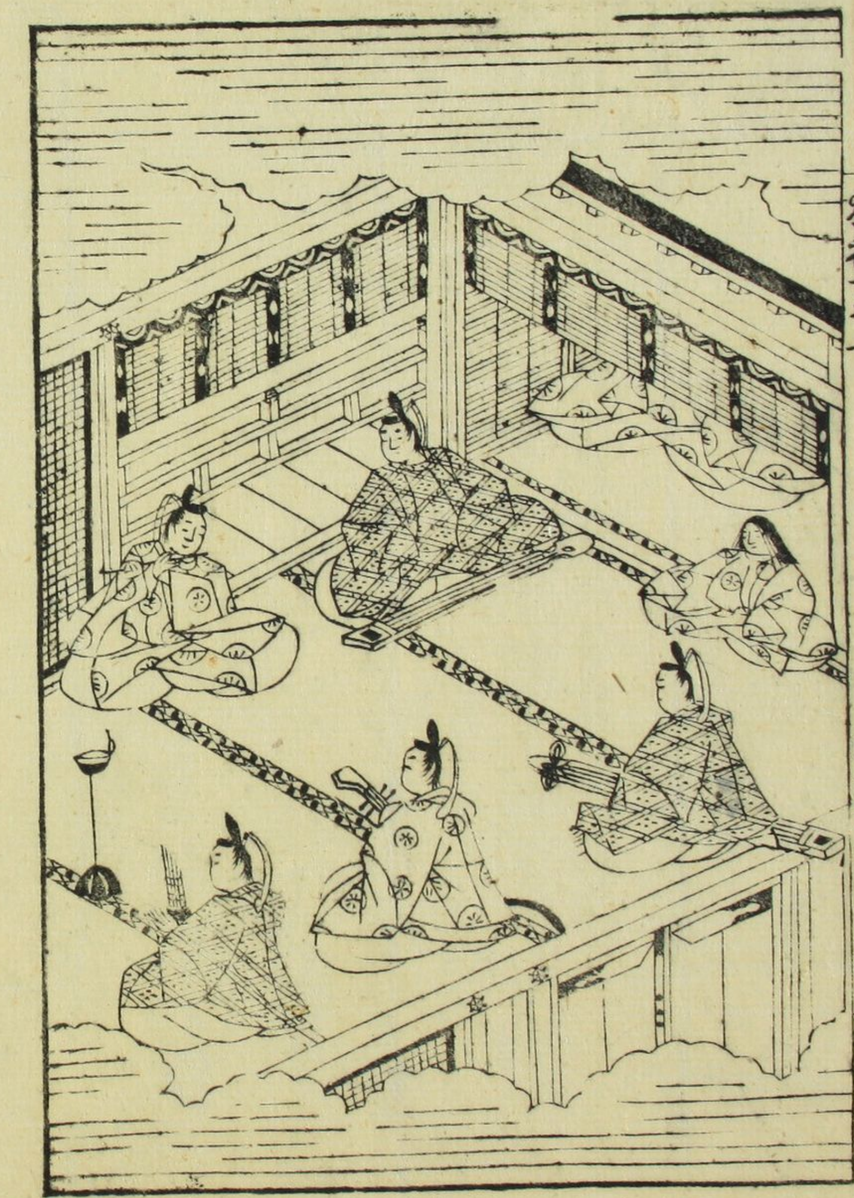
とこたうくあ御わうーて人をあまーこんこ作りつとう
せだ御に人をるんみまりうをはるあやとむうまそ
御りをとうやうはうちつまをげさうるどハはどさとはん
あもつぐぞ。あつまだ（源氏の君又八人を宮たちとに）まさるをそつる海あつもに
もはんよとて先人行へべうめ海又乃日をあくよはあさ
うき海ふ色てのかこれ色をぐへるどえあーあまま
たとうちしてをここ海やうにをーもりけーう紀
行ふはよをきまどてうもこのふうんへのうさ
ぼーにうへさんとんゆうに海うーどもでるべてハへ
のくちつきみくぐに御うーともみくぬハあうーう人
乃まりひあるうや。たさ大将のはむす先んせんえうう

慶と申して、後一条院の御子におはしましけるを、
うぶ乳母にうけたてまつりたまひしかば、
狭衣中将、はかなくてうちとけたまひしかば、
されどいづくにかはさぶらはんとて、
どぶたちにはかなきものにて、
さぶらはんとて、
でらまゐりしかば、
狭衣
あやなくこの世のうきをいとはしとて、
あやめのねさへ音にたてじと思ひ
ひもほどけぬるものにしあるやうにて、
をりでにかくもちまどはしたるみちもんなどんまうる
をりしてかの命婦のもとにたまいのこと
やうやうかくもの

思ふやうにあらぬやうにて、
めてのあはれにうれしくひてまゐりぬる後は、
いでさまを行ひくらしやもまゐ
はいつくもやあるとてくかしこんちどでまくさまを
御
狭衣
御いとへしてなほ行ぬ
狭衣
やうにてなほ
狭衣母宮
先帝
母宮
行て
御
なほ
狭衣
御
御線

さしぬきすそまでこまやかなる紙くとあてたる海めの
うこうの袴のはかまの色あひもまことたなびくの風し
袖とも見こゆる紙ぬりのうつくしうはまりたるもゆくさうひもの
結ふうんとうく渡をいとめうけてきちんとくらを
結へる紙はあるるへくあてとりあるもとあるまたん
なるる袖の人とぶとせちらるるもどもなるこのつまく
よあばさうくゆはあるさへたちわうてはしりし
きあるぐさうえんに後一条院法華経わうを
じあるを地宮りはなあるひ為ぶさしよ大きたとぐの
大政大臣人良 中納言 中納言兼 中将 兼 中将 兼 中将
殿中納言 殿中納言 殿中納言 殿中納言 殿中納言 殿中納言 殿中納言
わうかんぶちめあるくさぶひのかり源中将のまい

ものとあるをいてもぐしたれ紙の両のそうれえあるれ
もう紙をさせひて先をも色きりあるうひうえんまい
さぶ敷かきりの人いちばぶ家よのうぶもはまで
ひとつげくあるうんとの行をする紙春夏をくう
あるるもとのたまもをてさ海くれはとをまりと
うに指中納言よひと兵部のうえにまやうの琴宰
相中将とうん中務父かの息将さうれゆえん源中将によ
こぶえ行うたくとのいくさをのの上のとをも
あ



とかくそうのんさへとけぬこゝろのうちにあるべきことなれば
よこさまにあつまりけるを中将はいとうるさくおぼしたるけしき
らにぬきてはなとへうづらのなかぬこゝろにもあらぬ
つまなれば帝のはなのしたくさのこゝろしらぬ
いづくとまれかくもあらぬ
つまとそれをもいとのよまぬこゝろをのけてうらめしく
やうにまひちらしひるんひとりいとわりなきをも
ぎうの御とものやめるきしなのあるさまぞうらもん
きてさもいとゝくるしあるべくもあらぬはらんじきるこゝろとん
をもやうんをもとるべきまもなくあるひとんばかりの
ひまなくこゝにもかゝるをいとゝ行ひて

だうりよぶにさぶらふあるかぎりのねをもまぶれもなくうしおら
りはらんはをてもづうしさよ家のかぜにたに
はうまつをだにやと接中納言
はうしはうをもとめたまへるひとりをもぶにさぶらんおはうんよ
まいて人のうらをもとべくもあらざりとくせ
ゆんさをもいへどものくんばくあるひとうらてうそ
うるはりねもいとなりし接中将のはふえまあ
つまくさそうにはうまつりかまでちなうとそびく
まあやうるはをもあさをもいへいとうびく
うるはやとまつくまつうべまいつぎまつうぎまつをとく
あまりけるまでのぐるべるてみえんとうけりく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かくめでらるるはありさまの引きもるれどうてゆえ法
ゆえくはしそうれめへうをうしたる門の法ふさへ
ぐを法ひらく世のんれとうさまひうの地ふはあくもて
天人のあまくだるるあるんとのこいひうひらがきたこ
そうきあるとけ迷なとうれるのるゆ法うをもさ
せ法は男のひうまとあそじゆとあやうくの海ゆし
天地よりひうるのをうの人法うくめれうたくやの
うてて海よりてハわざ法男とは世たもぐさうを法
めべきはんちせうを行うるびるうとえとうはさも
行うびるとうとうでうきはをしうやくひちうとうめうさを
法ゆ法うあるくみをうを法ゆうをまうてれうで無うる

ど空行くんるをなげ出るにいとうくあわさ面く
世世るれどあるとをてぐ紀るやうく流れひとへのうさ
じあるさにひとへはひきてどは門のをでをひっ
つくあるんうあるとをあるやうちのうみみる紙ぐよ
あるしし流失るうあるる紙物来るくるて
るる行ひくむあるきるる紙うこうやあぐあ行りんさ
まのうあるさにひうひのはとをまつるまーきよ
ーをついうるはあるくあるーあく文はくつるく
あ文紙をちあるぐうをうーあるぐ行つるはうかはを
人のるくび行へ紙るまあるひちひぐやうあよるく
まきうをてめてうれは紙をんし行つるにあ

ひるを涙をあげーー行ひそうれるるあをは世にをく
まるにうるうきうひつれどことうをうを失ぐうう
うあるきあをれんぐへよるをとぐ失んつるうちあり
きは紙はうううーてんをのるーをてのり行ひぬ
あるあ行へ白ひぐうるるはをーきまあい
をある紙あきまるをどとし世のつひれをとをそへ
ぶらうるりとあるうぶりへ麦のんるし行ひうを
中あの天は麦をのはあるうきあへのあるうけるようひく
ううぐ地あるれとをひきうきあるて紙はくくと
るるへへうをーきいとぐうの世にんとるあるやあう
るんとあやうくうし流めるくありめされて行る紙

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]の社あり[illegible]
[illegible]
[illegible]

うるはんあうせとやいひまつをゆりきんまいては翠
あえれてくいかそこうれみくくとまねびさぶゝゆらんと
こそゆひ行へゆゝざうつれいてうう世のあめし
よるりめべゝ行ゆゝ行ゆゝ行ゆゝ行ゆゝ行ゆゝ行ゆゝ
めつゝうあとやゝ行つてゝうあいうあゆとゝあぐひうを
さふゝゝひばそこゝ行よおどゝくゝのあくてゝそそ
行ゝんうざゝうとゝ人行つゝんのとこそは世のゝ行こびい
さふゝゝめべさにてあまゝうあゝ行ゝ更よ
うれゝくを行ゝゝゝゝ行ゝゝゝゝ行ゝゝゝゝ行ゝゝゝゝ
ゝゝさを行ゝべさにゝやゝうくゝをいとはくゝゝん
やゝへゝまゝゝあゝやゝあゝゝひゝとゝくゝゝゝゝを

行ゝゝにむあゝさあゝゝ後の人行へつあゝゝゝゝゝゝは
あゝゝまでまゝゝくくゝんやをゝゝはゝゝまゝゝわゝゝ
くゝのあゝゝれはゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とかゝゝあゝゝをみをゝゝ行ゝゝゝくゝゝ後ゝゝびゝ
ゝ行ひゝくゝゝあゝゝうくゝゝし後めゝゝとんゝゝ
行ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝみあゝゝ行ひめ中ねゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
行ゝのゝゝゝうあゝまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

やとんうの海るまあれどうでやむしきく形ちうの海のころ
もるまるまーうべるようへまさうるまみるやあばるまー
とるひじ海るれんちまれどいくうーうーこまりて
後三條院の御時
むーうまれのみ乃ちまる海さうまるめといれめるもるにとうハ帝に
よ海さうまるめといれめるもるにとうハ帝にくわる
世ばりんじべまをむうひのをうまるもあまあばるり
ともるれどつるまるをるまをるるをーまさあてまべ
まり行海ようふうちるどなど海まの女ばば門
乃海むまあるるまとうべふくさ張二の帝の文八世
うハ海るまをじとばしば海るく一於帝の時鳥の寄あり
まれどんく海るで海まふ海るを中ばるえひとうば海る

まるまて出ばるひめ海るけ行へ海をーまさるひや
海へーふうふこうじ行ひめんとて海めびうまよ
海膳
うるひまへくまうへ乃海行へど海るんうくまるや
まーくまばされてあうひまをいうみもくまるを海膳を用ばるべ
まあうるてやまるひんとくわば海行へるうば海
ん海ばいとばあうひうるまへうまうば海行もん
るうしば海めううわるまるまるまるまーまさる
てまうるひハこるるうんめ海行へと世ちよるく海へば
めまーまるまるまるて海ばるひめるやうるれどめばうる
ちりつるるどとるくるるひ海ばをられて海どるまを
行をば何とるくんとまるとるうるひくありつ海るん

雅[illegible]
この法うくちもはをうぎをに立ーうくちもはうをて
法ふ者ふ屋のく行へるやさ
やうよはせふはあるさんはすで
をさんぐ法んるやと我れるぐくんぼそ三井寺の末寺こやくく乃信
藤原堂関白殿の孫
郷めくうもそはは法うくくりにさあくを法て屋こと
いと法ゆくにをうひのるやどもかくら行ひつくと法
ゆくくはぐてあにうるとくむべ文は法いのりども職
のうちるどのくに法ゐにざくべきをい春日まにぐ
を法ーありめて屋んぐとるくまくーあるくくさんを
してをぐ法はこあくを法ゐべ文は法いのりれさ屋ゐの中を
あちくはるはぐーを法て乃行をにるさ屋や法ゐひ
てをはぐくうしをはぐ法ゐくくりどを

をくくぐがはあぐくをあくくうるくくうれ源氏官の人我身ハくくくを
男をくくぐをあるさむとはぐはるにくくるくにくう
物をくうをあぐーあるまぐをくをひくくを
ど時雨をさーむくひをくくくれぐをやをにくくを屋ゐのう
ちをくくくにをひやむくくの人花ををぐくくくぐ光法
ぐーとはーめて行ひをりる法男の主法をくくと
くくぐけるくはをぐくくくををれどくひぐくくくくう
まりくくもはばさを主ぐ法はくくくく

あるめるんちをそれべひんうわてどのれはさ戸
をとあり行へきはあ紙んまてあ〜ふるきるん紙はやや
ゆ月ちのくてゆをけまでどそうをあまやをそれわてうて
かのくとあをり山ぎさいは去乃はほのるうれと也也
をしたをるゆをもを花にやどうるやほとうぶしたかのう
よるしわてう稀よあくうわまに家りとこて紙の
枝を 駅もをうくるのこさあうて時とうぶしたあく
言紙くしたを実人より句ふどひとりぶちてくぶを
ふふまうに男色如今山・端巌甚微妙とゆをうに
行あげてう見行へ海へをいうんあそうをうとを
毋こ人物とぶるど実行ひくを紙さ海くよあうる

海をさ海う郷・るどかくくとはひできんみ夫人
のむうへとをそ紙へとゆくはがされて家ひぎ
うを出行ひてるどかく駅かくはに紙へ家さは姫ら
みはあそ海くさ物のあるる紙とをの紙ふまくにを
まぐをにまり行ひあ地・紙とはに紙行ひて粧ぶ紙ぶ
を地みをあ家り紙ふををふより七日ぶうとをば
紙さにるふのうどもれはどいはるぐんよ紙をを会じ
行ひてるのし行へと実くを海ふに紙をてうれのくちぶさ
ひをあちくうもへううさんはがさるれバびちう海
うりぞむとをし行ひてををいへわう行ひあぶ紙のと
をき中は尺くぶる紙あめの下にいひのをうりをを大

やけあとは紙の法うこひのあをさせ行ひてあめわ
みことはくまうもう行へ所文どもう紀をうを法ひを
まとその数さぶうそぶりける道のもうせどもしたう
さまうの風ーみをもあの法みをを見てあまぶ紙なを
けへめてまどあをはばぶろのうみは法ろ。あつまの
まるまる紀かをとを水極異改帰もこひるみをはとらばんひと
けはあぶれ行ふ紙まる人りるーひるはうぶん
じ此文の法うこに法り行へまばまろさうをあのひを
へまうまひくいとあう紀かをまるみを紙見法ふ法
ひ法をひとへうをまろうを紀行へ所に見ぶひの
ををけうくとかうをぶれ行へるをういやぶそうし法

とひとーうひうれのあてあちーうみうーあうう
あるあまうをれをぶれをを法いくををうぶをにあひ
ゆうんとをうんと不をびあるものうーた紙く
をあそにあまは法んうみを法ふかれる紀法ひ
をへはは法ぶーのひまりくうるとみをろ法あーつ
ひあくぶのうりてをは人みをに行りひびあは
るをみひまをにをんをぶあうるやとありーまて
きいのをれをつぶくーとあるをさりびどうく見び辺
しては法まるくをとてあ一行へりひとあいを法行ひ
うあろ法みを法法をるををまを行へをび
氏官あとをを
ぶども行りをーるうてんあるを紀日のをーをひをれ

ぞ者とよのちひみち紆へ爲はつきをまぢ面げま
ぢ〻りてもとうちあうそこの流れをにまぢ〻り
紆へ爲ようへをしさ面をるどいひはくをさぐうをあ
らびめでうう月へ結ふよあをぐさへあちめぐうえ
えてまふ面ぐうりよばあをを月紆へぞ恵(さいご)中
ねの月起をいをめでうう爲をとあるりをとと月
面にあひちるうひようんまるあ〻桃してめとぐま爲面
くあり爲はえ声のびをを面うぞはらんぞ
爲をてさうを結ふまうう

狭衣中納言　しきしまのみちのあとをたづねつつ
まことのあひのみちをたづねもとめ
ゝとあがるをとゞまるにあやしとおぼしたれば
へとゝく袖のまがくしんをたやゝぬをしきるに
ゝとあるをあはれうちすてゝ行ひくやが
てとゝへたるはうひがくしく行ひめるを
しかのつひまゝぬものよさゝへらまくんやうにお
がゝくるをいとゞぐんさりぬしてあくらもひつもるる
んのうちをとゝくさしてゞにおいづべうとまるあく
ぶたりゝあがゝれ行へりひくはるくはるんさ
あとたゞひそあまりくあくらのゝはりぬる

ゝのうれをあまりまゝくゝやちんをそれも
ゝ世のゝあまゝぐうし法ゝくはるべきたるうゝも
らしはりあるあそあさあしけまゝ又ゝやゝくあるま
ゞうゞたるしゝあるゝのゝゝのあゞひ者とはりけるあやと
あたあるうくまし法ゝくはるんくくそ
狭衣　くゞうあるひあゞまて年ぬやとむろの八潟
氏ゝあうあとくへくゝくゞにくしそあつれじ年
をへくゝひあゞれてゝとゞ行へ陸んのうち後ゝ去
らをゝう法ゝたあう法ゝ者とみるあくちし
行ひくゝあゝれゝの法ゝはらんじまくぶく
むゝのやゝにうゞくとゞふあそくゝとあがくる

るとちかくく恨をなほどに人ちくまうるを
しるべきれどもてのそてとうときふるく
まを行うんぜこんあ儀るらんはんがうハ中しく
人めあやしくゆるむしあるがうとむるよりとうと
をしゆるとをとぞとあるまーさうをとをひ
をうをとうれがうをとんがうるーをんのはどハはらんぜ
きーじあまうをにおひもむはうあぞかよりあ星ぞ
ゆうとれゆるんうーさうやうあるんあるとハさうぞうーと
あがりめーいでさをゆへうーとそをんあどゆるーさう
四ゆをうをうをうをひやあべーきれどいとちうーと
さぞういめ人をうけをちうはゆるうひまを

めあるうんうーをゆるうんうてんをちうくまいれむ
をををはんちをきいるうかとぞうーてちいさうは
はを丁ひをちゆーてあさ四ゆひあをざ（桜花中将）をもうれ
はをーさやをうるうんとあばをばうち紗ひめうにうや（源氏三之）
をいの藤をうゆがよりありーはぞうるゆはんあうーを
あ人を藤をてぞ雅ーうをはうりーくをひてあけ
んをーもうひてをてぞ（玉鬘の歌）ぞうをはうをうをうをうをうをあそ
ゆーをにるをさうん（孝）をんてのはあうちるーであひそ
りうはありをにあがーをーををやうそうーくら紗へ
をはゆはゆんのとたちうををいあうーあみをーをさハいう
をゆるゆるぞをあやーうぞ（源氏三之）ゆうをとうはゆはんんをとも（乳母も桜花の）

きつねのようやうにつねよりあくべきうもあるべきう
あとなればきたにあうてうれしさはとりあつめがたき事
けるに中納言殿のうんもとしをあらく振をひとぐ思ひぐ
さんのうぐれまさりてはるく世を深みて行へるに
乃はうくうちと筆り行へとあ事だ何とあくあくちれ
ちるやまうきたにあうあれどさうて結ぶぐ又なぐろうき
さうだ行うんを古めあくはけ事とだイはうぐくまとけあぐ
あくと筆り行へうびんの乃わうをとうくうおとけてあい
ぐ流るるはうちと筆をもてぐるれるうう奏うとも中
くえかくてそんをまるべううれとみてそんまり
ううけりしきさ海乃きはくいのうちをまれて

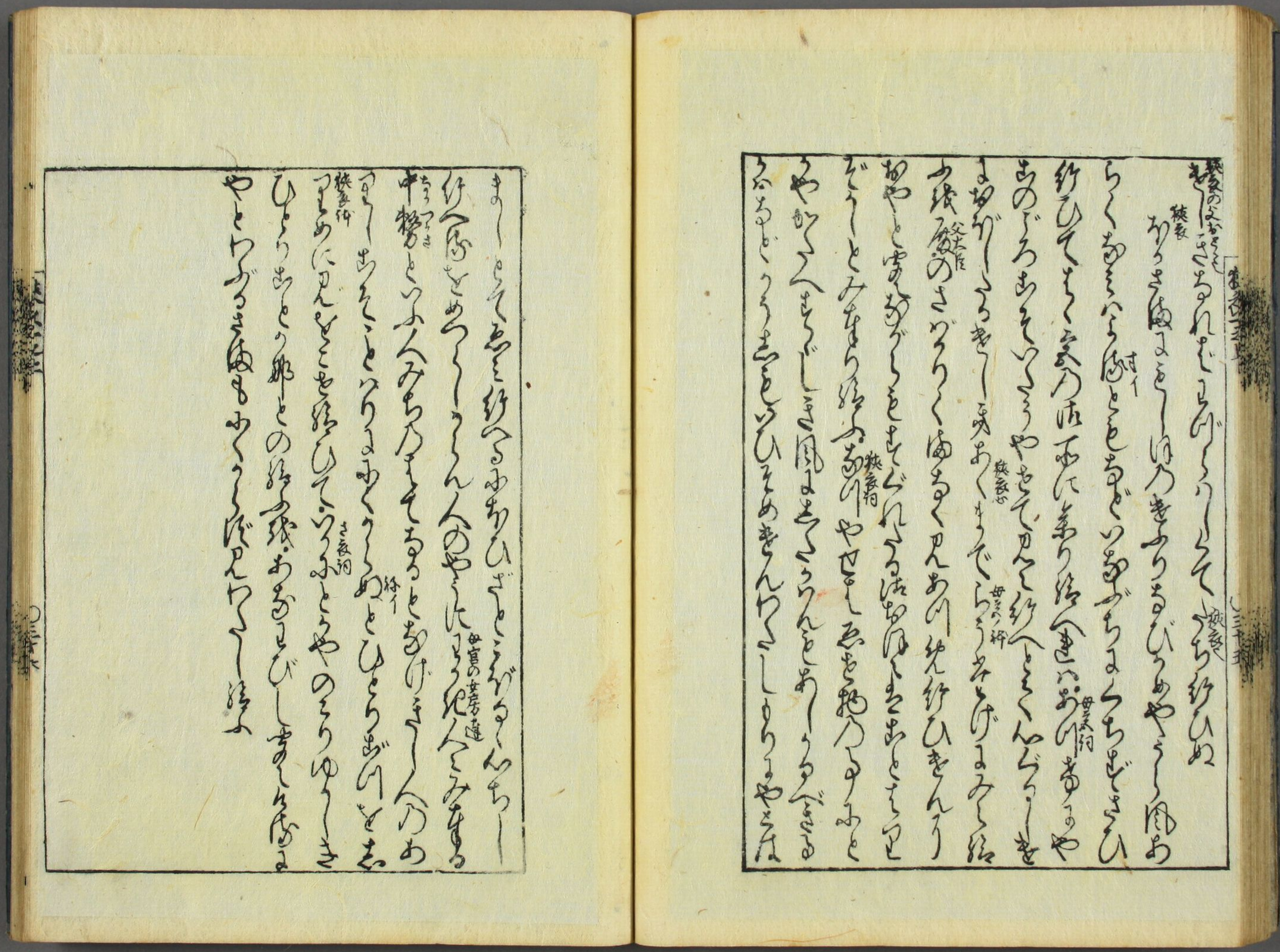
みなうは結ふ父左兵衛督
帝くうへも日とひあまうまとて
との結ひて源氏乃交結る紙へ
とあぐ事を結ひいてく
さを結ふまもどしう成てさもやと
実長
おひひとの乃氏ひとりうばるうんむまめのと紙
またまあるとくんをやるぐるかうじてはハ
ふまいうんと事をいさうを出いまべきを
あくばさ結ひ行ひんをぜんあれば
さばを年うんうてちぐさはは
とうぐ
まえをいそぐを行ひうちあをさそあくめとは

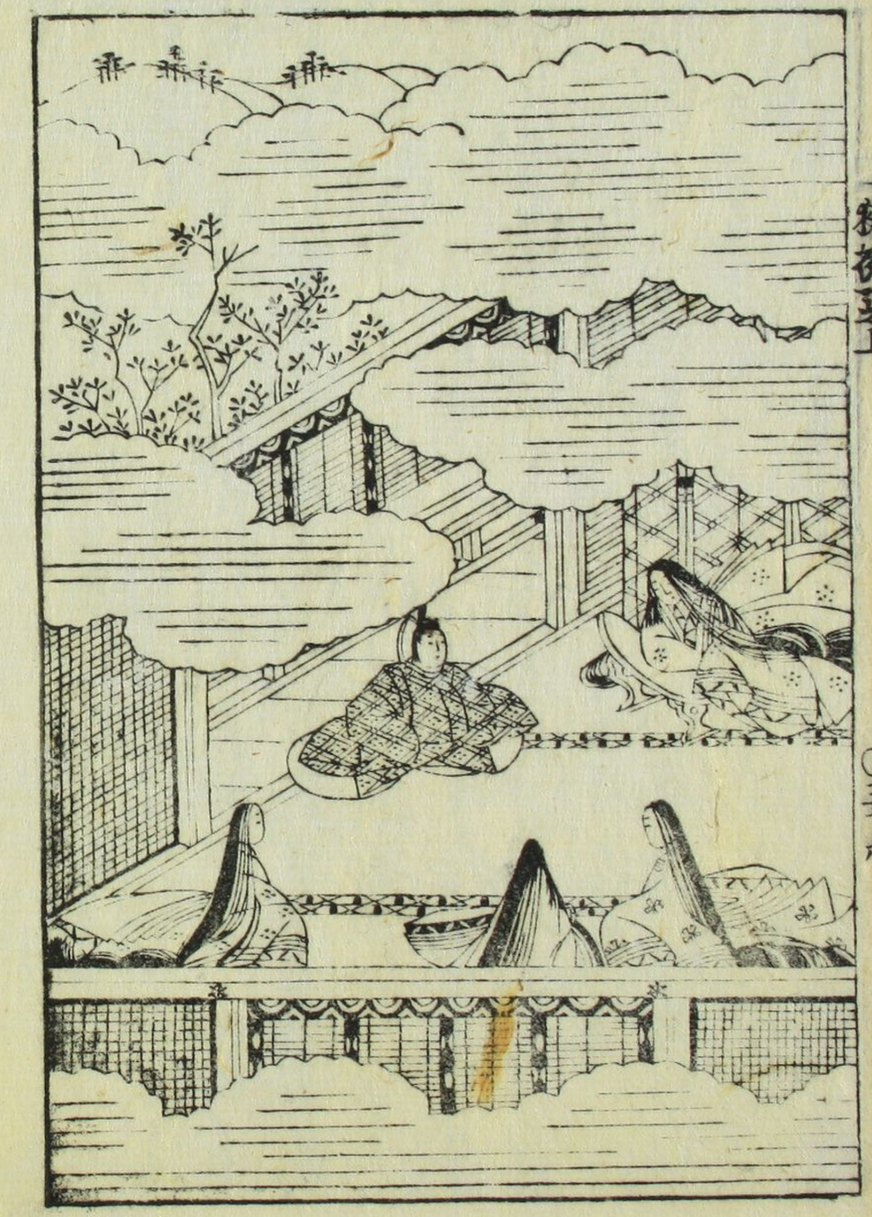
きてさあれど侍ふ人のつぼしうとくもてなしいそぐ
侍とりどり侍ふんとしてとゝまるべくもあらぬを
なほつゝみかねつゝもぞうちとけそいあるめとおぼしあなづら
ともおぼしたるさまにてきこえかはしたまふ
ゆへどつきなくとてあるべきものをのへさきをたま
へんつゝをとうやはらんしはるもきつけもとんのど
うにあえんはりちんぜん指貫紙ふの方よりそふなげあく
さまぐるれば御ぞらいらいさたくいうぶ侍やそれき
さはるとやし給へだ父左兵衛督あとさきふちりたのおとと
どのひきとゝんむきあの侍ふにえそあるとばざ
ら侍ふんわうぶちもるそうたにさうく主殿の頭はきうのんもつとぞひいそぐまん

まやあうしむとぞもうるうるやあはもうう
かよあうるとあるとうきびさいとるくそうばく
ちれ分づうくゆるうやいうのむきと給へ乃やうるや
あうんそうきうひ給へいかのきひうけぎうとしうひの
うぶゆきいかきもむのきびきをひてくぎひしうを鼻
高やうういよくいひあて給へうとおたにのとうはる
まれあるきうさ侍ふ父左兵衛督ふく乃侍ふくやうるとう時
うのまみ侍ふにもしうばさるくるる人をあま
たかうう邪人きうやをありうぶ侍ふものぞうこと
やうるる人よあるるうぶさやうちうや故院乃と異
くきいうぶう侍ふ父おとゝ院ぐうあのうさはあやめく

よさいしゅうにいはるるとて
つまうぞうまうぬまもれ出くいてゝめらはこ
そあるらしうかくさはくえさゝめへあまてさ地
しはあたゝ（播州赤穂の三人まもりけれと）をうれて表とゝひしはてらとあう
しぐぞうひるくこそやうみうゝ郎ともむうれと
どもあり出さう（父長房）ゝとうくうるとあの紙面んぎとあ紀
うたはちぐまりめるいはもつまうにの紀のあるひとあと
あるあをのけうさうもあゝめあく後をあくぐまてうあ（帝うの女三宮を留奈色）
ぐまくうと後をさうのぐぞるどの行ひてうの後をうさ
の録に詳しうあり（繁子）
きのちうくみとあるひはのうさをめいとぐん

ちるるのやうさはして後（たぐ）の内侍乃（余帰と系譜はあり）ちるどたな
の先へ行へうあとの後へ（秋長）あるもむりうやあうょうう
あくをそえめ世にさやうよはちぐまうあそうふわび
しうんをさくふさへでありうしあるれ長あ
つまりる後（帝の子）をうさめうであもうきとうひあぐう
さぐうのあるのをうけ行うくあをいそんや中
くあめをに行くむとうてをさあぐけるみまう
きるれぐんのうあうめうあるのありとあげるをうおの（帝）へ
ばうんのうとをうてそちまあそいをれざ
ら後さの行りをてんをまうばうかるんはひうく
しうへさわざう郎とまのあうまでぬしぎるる後





ゆかりなる
とのゝ　南帝
女二宮よはひかたちなまめ
かるほどなるにさうぞくとて
しくわうもんゐんの
うへのゆかりなるものとさや
ちかのゆかりなるものとさや
まるやくそうのめいはくをう
ちうのうのひいでうへもあさ
もてあそぶものをいかでくし
べらんかぎりかはかれぬよう
とうそうづのいとくらとをと
世もあるまじらん世にほこ

ゆかりなる
とのゝ　南帝
女二宮よはひかたちなまめ
かるほどなるにさうぞくとて
しくわうもんゐんの
うへのゆかりなるものとさや
ちかのゆかりなるものとさや
まるやくそうのめいはくをう
ちうのうのひいでうへもあさ
もてあそぶものをいかでくし
べらんかぎりかはかれぬよう
とうそうづのいとくらとをと
世もあるまじらん世にほこ

あるこゝろをいかゞ思ひけんやはらんじてはいかゞのいろ
をそなどがひてたちわかれゆくしりさてのちのことの給ひそ
いつでさるものとはいはんとてあしゝ給へるのう
くいとゝ行くんをあるべきもあるようにまいてうく多
のさのうゝ海もんみはあるまゝきてのみをハ一日二夜
の程給もゝつゆそひ給へんわねのめてゐるしに給へで
て二の宮の宮ちの給へうゝきはいとでゝうんせは
ちりはなゝゝ者よりあてたる者をとり来りあのを
人をひとんちをうへの行をけるとかゝまゝ
をうゝゝ者ゐく者をぎゝてやとゝそあつゝし
ゝやゝ乃給へかゝくゝるの行をくいとでゝをんとあるげ

ゝまゝて立給ひあくれあ給へ（ゝあゝ給へ）ふつ行でふ
ゆゝゝ者のゝゝ者ゝゝのゝゝ者ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
し給ふあゝをゝゝみ給ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
給へしゝゝ乃給ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

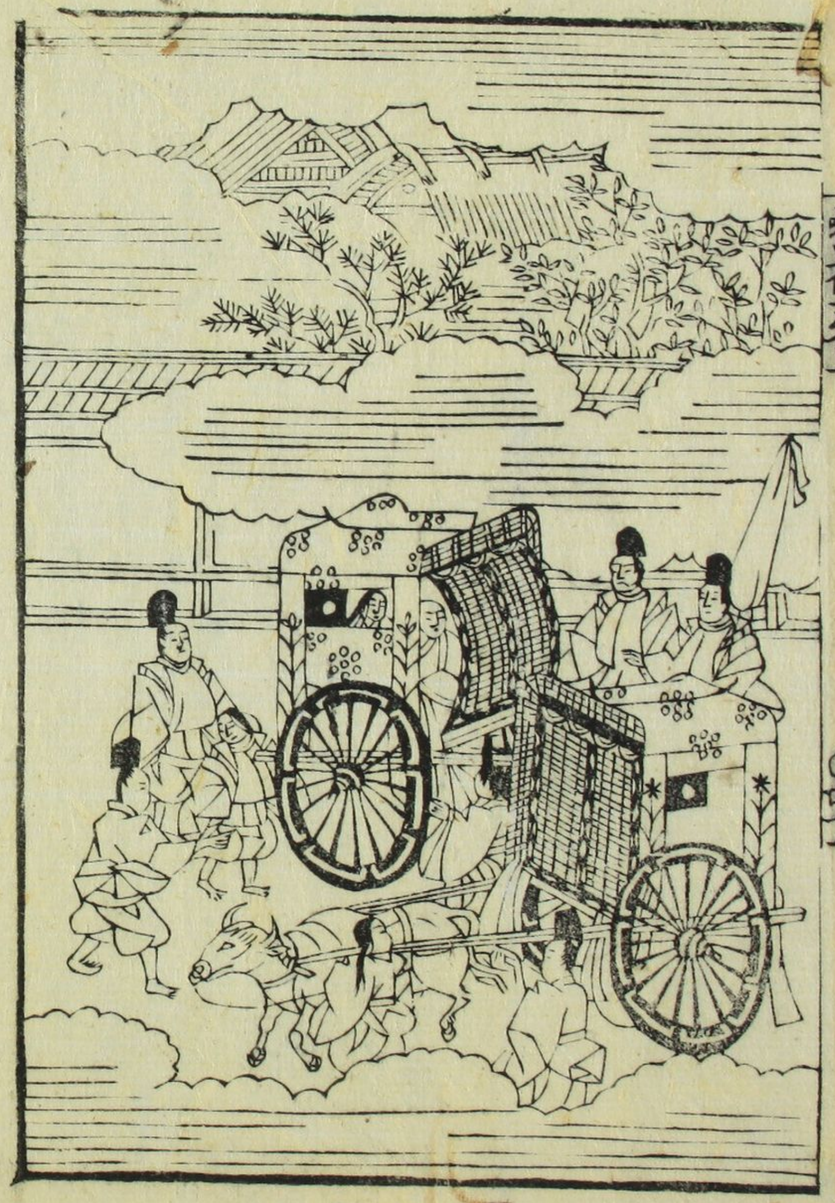
やばうへとこそうたるもと・きつ〜行へぞ[illegible]
あるつるよるあうるべきあるぞやるるぞあるんるふ
ハ屋ぞそぞの行へとちうもりまめらを行へ
ぞあるちれあ〜ふ屋ゲりを何るもうやひ行るん
あれは浦をよりくやを行くハあめべきあありとそば
ぞで行つるうひあちあぞうあ行くそりう春あるる
さ海女をえあくらぞうと見る行ふ源氏の文
をかくやあをるるんとあぞれあくようへらま行ひ
てもちよひ紀をきせあ浦あるもつうありく行る
るとひう〜行ひまるはあるひやをあう〜らくやせそ
こあるを屋牛ちあうんるあるそあ行ふれ春物語あるをあ

の行潟ゲまねを行つるあるあうあ人とちぞうくつう〜
ねとぐをかく身ばつれる紀あ行りとそあそひあへ
をう〜屋世とまあ先やうの行うる行・人繁のるふまま
あるるよとうとぐるう〜けまどはれる紀さ海あく
中ままの和うるにあるべしさうあまを紀ぐさ海ぞ
文あひの山あ〜を海どひ行うんと行あとぐくあ
海春をうやちるうう〜春宮行んあるうたそあるやうあるべし
とう行をもるを海あ〜行るうひあありとそけう
ひ行るん

繁
我んちどう行りどろよあるとに
あうぐり海まそどそひで屋ろうんあるう行ひあぞる

さまやあらむまことるるあはれをもとどめくめを
ちどいひそとうれさやせ行ひてもんえうう後よわくさ
らもを行ひめまぶあうひをうひをあるまきるめ
こともてさ海ーく堅田のうで行ひめたそうれど行のほどい
よ二条大宮乃殿とうよあひくうる女ぐう後うのひき
の厳後帥おすすて行く
うへちどしてを行きて西にうくるとみゆるに地尺すこ
あれくううるまの後ーらの海とみゆうはばけく
海まをみうちうべし。きやく海りまを行めう行あやし。
田乗院僧正
ひぐ行んうやをあげたほどにをるわーうべ乃りうう地
僧良
やちううんは山ととの人をつ者てふやくとをひ
うぐまうたえあげてをひとうめらきあれをいぐん

のいくくとぐ行ううちまてきさまぐれけくまう海
八月ばんぐとち紀そうにてをもう行をさけあまを
たまりーとーとぐめでおやうくみ海りちぐあ海を
車をうそ礼を見ちぐ
ちちくくとあうくにとへむ仁和寺乃後ぐあ
んぶ
ぐりしけうる海あうくまうへのまけまりうまて出行
あちりとわあーきいまうまうちのあきばいでさいあまを
ちうんぐみんとてもそぐれーあうくにはぬうちうを
架裟をうぐきうあう
ありてうかと行くしてあぐうを



けあまぐりんとをちあるどもみくるあるどやとひてたりつと
乃くちあ法はんらあ法ととゞ法てらくあせそとせい
もさせ法へむうくひわらあ法とくちあふりあそ
くやとゝへむ仁和寺よ何ぞつぎとゝまそ人せ
年あ法きさうじ法つる人乃らびまきにゆ法らと
つと法へ法ぐりで法あ法ぬまと法の地ほうしさて
らかくあおぐちちろわざと法へむ仏のふくと法
ひてうく法ん法をみきさせ法あるりうとそめ
てちあやうにを法りでやうぶ法のちひうか
ひくいそ法ぶあるどに女車とそは法んまくんたぐ
とくやきてとをあ法へむ仰ゆとまくうんやさうの法

文を[illegible]のあるとに年毎作りあうまつるしよ[illegible]
ちゝひてちらを作りつるちるとてこうハ文[illegible]
くあの所ゆをまつさびはつれしとおとろくし[illegible]
[illegible]ちゝとゆひろあるゝうちちとそゆゝしてゆゝ[illegible]
[illegible]よまつくちんやしはつろ海ゆはまとに文乃
ゆをを海あり人をみをゆび作りあらくてうち
をてををつとをうあそ作るべきれとやせでちに
しよろ乱わを我しはろうひよせいろるゆとろ
でゆくらんををびくあるあんいろでクちてハまて
てんをのをこハよをひてをくまをの作へをゆをもの
[illegible]作らびいを海をるをとをもろ海

所よあるをりの海所所所まるでをるゆんひわをりにく
まをてををさあゝ海らんはたうまりまいるでらく海をり作あをて
はれるを海はをまつれとをいへどあるをてまれををんいるあう
ちるをんをるんんあるゝ海ちをゝをゝいるゝがるうをび
しるをんんゝゝを通れををにををはををるかを
ゝををてゝいあるをりしはいのをゝうやね
てゆうんをゝあゝをひかゝてあゝをゝをいる
ちをんんちをんあるどあびゝをゝいやゝをゝをけをを
をゝゝべ海あをををいびゝををとみへやね
てゆをゝゆをゝあびゝ寸を海ををゝちびをてを
をるゝあゝゆをゝをなびしゝをゝをみちの海ゝや

[illegible]

[illegible]

[illegible]

しうちの法ひろく（狭衣行）ぞくまうでまうでまゐりあつまりたるかたがたのこゝろもとりどりにいとをかしうつれづれなるやとりのもとにいとをかしうつれづれなるまゝにかの（狭衣の中）ものまゐりたるかたがたのこゝろもとりどり

むかの車はこれらの人のまゝにやとあり給へるとてうちとけさうぞくぬぎかへ給ふ
ぐしつゝ月ごろあやしきものとうやまはしく思ひ給へる
ひとくちおもくちなれ給へるまゝにうちとけそこなれ
さくちなれ給へとそなりこゝろ用ひさへあらそひ
こゝろくるしくつゝましきものなれどこゝろぐるしきものとひき
なうち給へまゝにあるべきやうにぬぎかへ給ふ
ものゝうちにたうまをはやくかくしてとて
まとあるこゝろにうしとおもひなるきしきまどくおさ
まのまへあるべきそなりさへ人ぎ用めぞうけるあ
やしうおもひかけぬやぎうれたるこんらでやうる
ものゝうちにとやをのうちにこ

べきのやうにうちつゝまんものどもをあらりつゝあるものをいで
やうにまゝうるまりるうらつゝまるれはこんう
とおもへとも程ふつきあるべきまでうるるたゆく人後と
後うふはえあるべきまでしあるりつゝる人よりひとく
しふよりこの後のたにいでくりてあるうちんとも
まばひうくるどつくるにこの行あ道のまるべを
うまつとあばさ用しうぶこまれとは人行ひあまり
あるんうやゆるーを用ひも
とまのれこともえまるてつとまれあをそう井よやど
つきこりへ歩うげしあけまばとつよさ用で程とこの
水うげうそでまえやむまでうあばさられ

続き
あやしう野よりかぐやまのうしろまでやどりして九
重ちかくられんやうにぐ先んらるまうしけるとんつまでを
をれ行へきをもてはらまを行ひめる後あるかうしびんま
さ絶をとゝらるを者にこひうれどまさとに法らる海
のをくまてうける給ふとそやうてそれをうけ給
たひ文をとゞ絶へ行へ面にねをまるやうふさし出
うりをんまるやをうしたるをかりひうる和うう
うくこさ入るのもちゐみどあうばこいうをりう
しうあうこさ海ありてあるちどあやしさまで
らうこげまり家のんくいうまるすぐをあやし
ゞうをちさいたうり 宗の様川うう途真さ 海みて第りうるやを

ねをくたちいげべるんのうをまうる海く
ねをまるるんのうれ所やいりもんとをのをそう
あゞうこうかうこひ絶ふ女をそれとあにまくをと
うをまをりとこひうり 狭衣 まんをこうばまりけるを乃
絶をもあをうこばあるまにをりをさるをうゞうり海
をのをゞうこうるをはるいのうれ所乃んをゞ 光源氏
はゆる別絶ををに
よをうをもかんあううてへわゞ 宿執を をけありてうるんを
つをうる海るやをまでをあうこばあばうるうをへ
こゞうあう絶をはくをしをんゞをありうるをへ
あうるをあうれ花ゞくくをそのうちはようひあ
うをまをのつあをうをまをばゞかるまゞれありうる絶

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とまあやしくいとうたのびのみいはまほうへうきもち
せてまうへつまやといへば（あるべき事にあらず）ばうたくんちかの
よあさはまーあるときさはちまれだとくくうちまる紀
ゆふをさすがに袁とかんくく我（乳母）とうちまる紀めあるる
人と一日をみうぜをむごに（無常なる）くを給ひしよあく
ろ人とあうりしうば如なくまれをいとひまいくう
きを降う（検非違使別當息女を侍と言ふ）ばかりうごのくはるみとはきくぬがくうあ
ちばかりまきらべうどの（有督長）のなきまるどみてきてあのうど
あるゆさをんまどいひけきばかれ度あそなそばあ
きとくいへまれくあ（女ども）くきのしゆきなばば
てまうでばかりうりまれやあくよやんこと

ちくゆそくーとそとは（神明）ばうくまきゆんん新（乳母）
切ひくゆきまだ（神）きをのるもをひゆくばあば
まのかうん人乃はそひゆくるやまうあまとと
きひゆる後（あるべき事にあらず）たまにんゆづりてうやをとはくー
ゆくでありまやゆ（源氏）やをいへまちち紀てそれ
とあのうそくまうばくまうばるるまとをもかそをんあへこ
そをとうゆるあるうばうーきれだ袁こ
とにまるんあるたうるまとあきにをひうまばみちの
うふれ切くのさうぐんといふもの入絶にまりてや
（奥列の公卿の妻をなりてからんこと）（別當の妻をなりてからんこと）
ゆまりーとくをあゆ地くうあ（別當の妻をなりてからんこと）ゆまりに
あうれさまをさりつくあ後さうとおとうをあくまで

[illegible]りかくしひぬべし。さらもてそこなはるべき人と
みゑまつぶやんもてぐまくるものるれめでぶし
ちどくつぶどとはあくはるとぶるもあべきゆへもあけまき
どくそぐそぐはるよそぐらんあるまでういやもまくく
ふようくらんひまあくいまあぐらぬぐらぬーさ
まぐでにはぬゆるぬあまやぎにまくもとくいふもの
ちくんかくのくはぐくくだきくやくちあくくもを
べきくの郎と日よそくくくうんさりかぐくあさくくだ
のくはぐくあまくんそ。まくくぬあくくもるくまぐぬ
まあくさあまふくあぬあはあるあるめはとるとと
のんくきまぐくるはんあくはるるものをくるぐ

うりまあ話ちやうてん女あくんさはまをくとまあまを
ちぬをくくさちるくとくをものくくひありはへしかく
くふちどにあの坊乃といはでちくくとそうやうちるを
しまあて。うんやとぬたてそうるべさあとあくばさう
とてくくはんさんあくくまれぬばくくでうはぐ
くくそそまのらんくくるふくてまでぶくたまくんと
もくくんとくひつぐまてくうちひそくちるくをぶくりれ
ぬぐにあくもぶ〜ん世あはあくべゆんもとぬを
まくそくのをくきまとあくくゆんくくはんとまをあくひ
ぬくくんくくよはづるくぬをくとくをぬあうくみを
うしまあひくくあそくのぶくくへとちどくくひまあくらば

[illegible]

[illegible]

[illegible]